

# KADENA SKOSHI

JUL 2011

Vol. 34

第18航空団広報局発行



7月1日・2日、アメリカフェスト2011が、嘉手納飛行場内で開催されました。猛暑やにわか雨にもかかわらず、両日でおよそ35000人の見学者が訪れ、空軍、海兵隊、陸軍、海軍、航空自衛隊の航空機の地上展示の見学、特設ステージでのショー、特設遊園地、出店会場などで終日にぎわいました。

2日目は、地元住民にも一部のゲートが開放されました。第18航空団司令官のマット・モロイ准将は挨拶のなかで、「アメリカフェストは、日本の皆様に感謝の気持ちを表すと共にアメリカの誕生日を祝福するという理由で開催されています。また、太平洋地域の相互防衛のために日米が共に協力する中、自由、家族、友情、平等というお互いの共通の価値観を共有することができます」と述べました。

祭り会場で行われた太鼓演奏や獅子舞などに地元の方々も参加し、特に琉神マブヤーショーは、日米の子供たちが夢中に見ていました。アメリカフェストは、航空兵とその家族が地元の人々と出会い、日本との長い同盟関係を強固にすることができる素晴らしい機会です。「ハンバーガー、ファネルケーキ、花火などのアメリカ文化も楽しんでください」と、挨拶をしめくくりました。



イベントの様子は次ページで紹介しています。

## CONTENTS

### PART I

アメリカフェスト2011  
アメリカンキッズの夏休み活動  
夏の安全キャンペーン  
キジムナー・フェスタ始まる

### PART II

SpotLIGHT-基地で働く日本人従業員の紹介  
第18航空団司令官、空軍兵に訓示  
空軍ボランティア、英会話で文化交流  
新司令官紹介  
第18航空団組織図



# AmericaFest '11

CELEBRATE INDEPENDENCE DAY  
CELEBRATE INDEPENDENCE DAY  
CELEBRATE INDEPENDENCE DAY  
CELEBRATE INDEPENDENCE DAY



(Photos by U.S. Air Force)

CELEBRATE INDEPENDENCE DAY  
CELEBRATE INDEPENDENCE DAY  
CELEBRATE INDEPENDENCE DAY

# AmericaFest '11

## アメリカンキッズの夏休み活動！

第18航空団広報局

皆さんは米軍基地内の学校に通う子供達がどのように夏休みを過ごしているか知っていますか。基地内の小中高校生は6月の中旬から夏休みに入り、夏休みは8月の中旬までまる2ヶ月間お休みになります。米軍人や軍属の親も一緒に休暇をとり、夏休みに家族で数週間米国本国に帰り、親族のところで過ごす人も少なくありません。沖縄で過ごす子供達は、親が仕事に行っている間、基地内のユースセンターやティーンセンターといった児童館の主催する様々なイベントに参加したりします。ユースセンターは6歳から12歳まで、ティーンセンターは13歳から18歳までの子供を対象として、受け入れを行っています。



ユースセンターが主催するイベントには、沖縄の色々な観光地や施設（例えば、アイススケートリンクや塩工場見学）を訪れたり等、基地内外で色々な企画をしています。ティーンセンターでは、クッキングクラス、生活に活かせるスキル（技術）を習得するライフスキルクラブなども企画しているそうです。ライフスキルクラブでは、車のタイヤ交換、面接の受け方、お金の管理の方法まで、日々の生活で活用できる様々な事を学びます。基地内のアーツ&クラフツでは、夏休み期間中に日本人講師による陶芸(ミニチュア シーサー作りなど)、また紅型やこけし人形のペイントなど日本や沖縄工芸も含めて、様々な講座を設けて子供達に教えています。夏休み期間中は嘉手納基地の子供達だけでなく、海兵隊の基地にあるユースセンターなどからも、時には30名の団体グループでアーツ&クラフツに来て講座を受けるそうで、体験講座に関しては、一年間で最も忙しい季節になります。このように、基地内の福利厚生関連の事務所ではバラエティー溢れる活動を組み込んで、子供達が安全で楽しい夏休みを過ごせるようプログラムを企画しています。



### 夏の安全キャンペーン

第18航空団広報局

CRITICAL DAYS OF SUMMER

嘉手納基地内では5月の米国公休日であるメモリアルデーの週末から9月第一週末まで、夏の安全キャンペーンを行っています。この時期は日中の時間も長くなるため、交通事故や水難事故が多く発生することから注意喚起を促す目的で実施されます。

米国空軍では、昨年1年間に16名の空軍兵が事故等で亡くなりました。その内13名はオートバイや自動車等の交通事故による死亡でした。

また、沖縄ではマリンスポーツが盛んですが、沖縄周辺の海は潮流の変化が早いところも多く、海水浴 ダイビングなどを行う際は、必ず事前の天候状況を確認することを求めています。シュノーケルやダイビングのため一人で海に入ることは危険であり、慣れない場所で海に入ることも控えるようにと注意喚起しています。

また、安全管理に関連して、飲酒運転は絶対に許されることではありません。飲酒する場合は必ずハンドルキーパーを確保してから飲酒するという、またはタクシーやAADD（軍人ボランティアによる無料送迎）などの利用をあらかじめ計画し、理性的な判断を求めています。各部隊司令官や監督者は、部下である空軍兵が各自責任を持って分別ある行動を取ることを大切さを説き事故を未然に防ぐことが求められます。決してウイングマン（仲間）を置き去りにしてはいけないというのが、米軍の文化として基地内外問わず常に要求されることです。楽しく夏を過ごし、自分を守るため、愛する家族や仲間を守るために安全管理を心がけるようにすることが大切です。

## キジムナー・フェスタ始まる

第18航空団広報局

7月23日土曜日の午後、沖縄市一番街にあるパルミラ通りでキジムナー・フェスタの開会イベントがありました。

湿ったタイル張りの路地では、アダンの枝をほぐして筆作りをする人や、その筆で墨をつけ文字を書く人などが路上に広がっていました。アイス売りや、ブラジルの肉料理、沖縄産のマンゴージュースなど出店も軒を並べ、上をみると破れたパラシュートをリサイクルした天蓋がはられていました。薄いパラシュート生地は空に漂うくらげにも見えますが、その下は丁度路上ステージのような空間が出来上がっていました。

午後5時半、先生や保護者に付き添われエイサーの衣装をまとった米国の子供たちがおよそ20名ほど集まってきました。大太鼓やパーランクーをそれぞれもち、地下足袋もはき、音楽が始まるのを待つ構えはなかなか堂に入っています。子供たちは嘉手納基地のアメリカエアハート小学校の生徒たちです。大太鼓を抱える男の生徒達が体を精一杯後ろに反り、空を見ながら「ハーイヤ！」と叫び、「スリ、スリ、スリ」と周りの踊り手たちが調子をあわせると、「7月エイサーまちかんでい」踊りの始まりです。アメリカの子供たちは沖縄の音楽を体全体で表現していて、国際色豊かな見物人たちは、一曲終わる毎に拍手を送っていました。

キジムナー・フェスタは7月23日から31日まで開催される青少年のための国際的な演劇パフォーマンスの集合イベントですが、アメリカエアハート小学校の子供たちのエイサー団はその開幕にふさわしく相互の文化が混在する沖縄市の路地でところ狭しと飛び跳ねていました。

(写真全て、米空軍：ジョスリン・リッチー等軍曹撮影)

